

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(108)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(108)—

1. 始めに

前報(107)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は器楽協奏曲です。

RCA RGC-1139 (ビクター)

モーツアルト フルート 4 重奏曲ト長調

フルート 4 重奏曲ハ長調

フルート 4 重奏曲ニ長調

フルート 4 重奏曲イ長調

オーレル・ニコレ (フルート)

ニューイスラエル弦楽四重奏団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

RCA 盤ということで、Columba、正相、第 4 時定数 High で聴いていきました。

この国内プレス盤でそれほど盤質はよくなく、ニコレのフルートも、バックのニューイスラエル弦楽四重奏団も緻密さに欠けます。フルート 4 重奏曲ニ長調はお馴染みの曲であり、どの曲もニコレのフルートは軽快で爽やかな演奏であり、バックの弦楽陣との対話が進行します。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、盤質には問題がありますが、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/